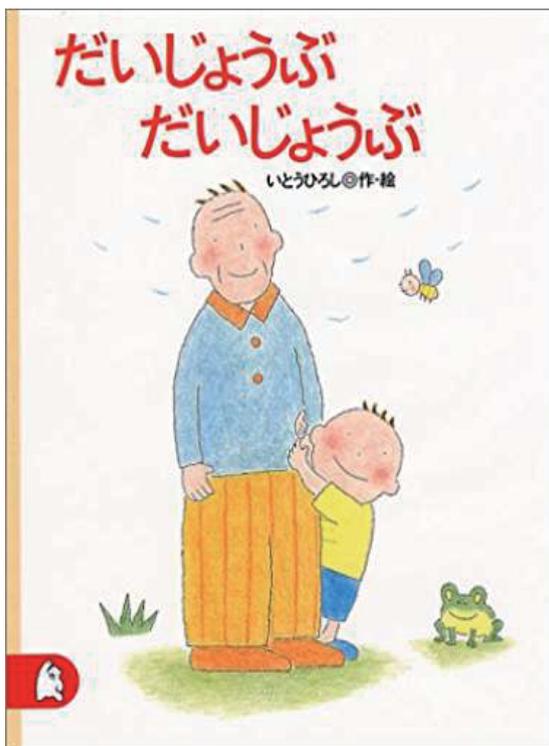




発行所
龍頭山 受法寺
〒781-0262
高知市浦戸 343
088-841-3870
URL: juhouji.com



E-mail
juhouji@gmail.com



だいじょうぶ だいじょうぶ

いとうひろし作・画

ぼんとおじいちゃん

まいにちのようす、お散

歩をたのしんでいました。

と始まる童話、

『だいじょうぶ だいじょうぶ』
いとうひろし作・画

少し喋れるようになっ

た2〜3歳くらいの子の男の

「肯定の言葉」を
振り返ってみますと、
私たちも小さいころか

子が、おじいちゃんと、
散歩をしようと、色々な
困ったことや怖いことに
も、であうようになりま
す。

僕をぶつけんちゃん、
しかめっつらをするくみ
ちゃん、歯をむきだしう
なる犬、車や飛行機。冒
険で世界が広がってきま
すと、色々なあぶないこ
とに出会い、不安な気持
ちになると、おじいちゃ
んは僕の手を握り、おま
じないのようにつぶやく
のでした。

「だいじょうぶ だいじ
ょうぶ」と。

ら、父母や祖父母や多く
の人たちに、「あぶない」
「ダメだ」「やめておけ」
という「否定の言葉」だ
けでなく、「大丈夫だよ」
という「肯定の言葉」を
かけられてくることによ
って、人生を前向きに考
え、ポジティブに進
むことができました。

人生で一番不安なこと
はなにでしょうか。

「われにまかせよ」
阿弥陀如来は、私たち
に「われにまかせよ わ
が浄土に迎え 必ず仏に
ならしめん」と誓われま
した。この誓いは「南無
阿弥陀仏」の念仏として、
仏様が私たちを救わんと
寄り添い、私の声となっ
て届いていました。

不安や苦しみ悩み多い
ことがあっても、仏様の

「自身は現にこれ罪悪生
「死の凡夫」と仏にであ
うぶ」という声に
背を押していただき、
人生の道を歩かせてい
たこののちの行き先では
ないでしょうか？

永代経法要

日時 五月十六日(木) 昼二時

法話 藤山大樹師

本願寺派布教使 南国市 西福寺

■盆会

7/16(火) 昼2時

佐々木俊教師 島根県

■彼岸会

9/16(月) 昼2時

野田成敏師 福岡県

■報恩講法要

10/16(水) 昼2時

福高英昭師 福岡県

■法座

聞いて書いて味わう 正信偈

—住職の話と写経—

6/16(日) 8/16(金) 昼2時

手本・筆ペン・紙は用意しています。いつからでも始められます。

■納骨堂でお参り

・秋彼岸

9月23日(秋分の日・月) 昼2時

■そうじの日

第2水曜日 朝10時

5月は第3

5/15・6/12・7/10・8/14・9/11・10/9・11/13

■納骨堂内工事へ

4月に、納骨堂改修工事の同意をいただき文書を送りました。発送先は受法寺で把握しています名簿ですので、知り合いでまだ文書の届いていない方がある場合は、お知らせください。工事は8月末までの予定です。

工事中は堂内に入ることができませんので、外からお参りください。

■浦戸「六体地蔵尊・中央阿弥陀如来像」

修復建立および周辺整備について

ご寄付の協力をお願いします

受法寺がこの浦戸で建立されたのは、約五百年前の永正年間(1504～20)、堺の僧正善によって「念仏の道場」として興され、受法寺二代池慶乗は、長宗我部家臣でありました。

関ヶ原の役で敗れた長宗我部家の浦戸城明け渡しの際の浦戸一揆では、273名が討ち取られました。首は塩漬けにされて大阪に送られ、首のない胴体が埋められました。その場所に、有志により昭和14年に建てられたのが六体地蔵です。中央にある阿弥陀如来像が崩壊寸前で、この度石仏として新しく建立することになりました。

「長宗我部盛親にせめて土佐半国を与えよ」と主張した一領具足に思いをはせ、私たち受法寺一門も少しでも協力させていただきたくお願い申し上げます。

■『遺跡が語る高知市の歩み

高知市史 考古編』が刊行

受法寺も紹介される



高知市史編さん委員会考古部会の調査研究成果をまとめた『遺跡が語る高知市の歩み 高知市史考古編』が刊行されました。本書では、先史時代から近現代に至るまで、現時点における最新の発掘調査成果や遺跡や遺物等の情報を元に、考古学から見た高知市の歴史を描き出しています。

受法寺所蔵の鬼瓦、受法寺出土の陶磁器についても詳しく3ページにわたってふれています。

定価 2778円+税